

令和3年度事業計画書

(令和3年4月1日から令和4年3月31日まで)

当財団は、令和2年度から令和6年度まで、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館の管理運営に係る指定管理者の指定を受け、優れた舞台芸術作品の提供や、県民の芸術文化活動の支援に関する取組を継続的に実施している。さらに、地域の核としての賑わいを創出する事業を実施するとともに、経営に関する改革にも取り組んでいる。

令和3年度においては、これまで培ってきた実績と経験を最大限に活用しながら、県内における芸術文化の一層の振興と、真に豊かさゆとりを実感できる県民生活の実現のため、引き続き下記の日標を掲げ事業に取り組んでいくこととする。

令和3年4月から、蜷川幸雄前芸術監督の後を引き継ぐ新しい劇場のリーダーとして、振付家・ダンサーとして舞台や映像の分野で幅広い支持を集める近藤良平氏が、彩の国さいたま芸術劇場の次期芸術監督に就任する。近藤氏は令和4年4月の芸術監督就任に先立ち、劇場の新たな創造発信の方向性やプログラムの策定にあたる。

近藤氏のもと、次代の芸術表現を果敢に切り拓く創造拠点として、また社会や地域に開かれた広場として、あらゆる人が自由闊達に交わりアートを創造・発見する劇場を目指していく。

新型コロナウイルス感染症への対応については、引き続き感染症対策を徹底の上、新しい生活様式を踏まえた安心・安全な運営を行っていく。

(1) 埼玉から国内外に向けた芸術文化の創造と発信

「彩の国シェイクスピア・シリーズ」や高齢者演劇集団「さいたまゴールド・シアター」、若手演劇集団「さいたまネクスト・シアター」、また、舞踊では次期芸術監督である近藤良平氏率いる「コンドルズ」、音楽では「バッハ・コレギウム・ジャパン」など、公共劇場ならではの埼玉独自の取組を行い、埼玉から国内外に向けて新たな芸術文化の創造、発信を行う。

(2) 県立文化施設独自の事業展開

彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館において、芸術性の高い特色ある事業を行うとともに、全県的な事業の展開に取り組む。また、作品の制作過程を通じた若手人材の育成や、学校での芸術の体験機会を提供し、社会に貢献する事業を行うなど、県立文化施設が果たすべき役割に積極的に取り組む。

(3) 地域の核として賑わいの創出

彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館が持つそれぞれのブランド力を活用しつつ、地域の特性に合ったプログラムを行うとともに、さいたま市や地域の事業体、地域の方々と連携した取組を行うことで、地域の核として賑わいを創出する。

1 舞台芸術作品の提供等に関する事業

(1) 自主企画公演等及び国内外との交流 (60 事業)

彩の国さいたま芸術劇場では「創造する劇場」の理念のもと、芸術性の高い舞台芸術作品を創造し、国内外に発信、提供していく。

また、埼玉会館では、地域の方々に親しみやすい作品を中心に事業を実施する。

ア 彩の国さいたま芸術劇場 (53 事業)

(ア) 演劇部門

若手演出家の起用や子どもたちの鑑賞機会の確保に努めるとともに、蜷川レガシーを継承しつつ質の高い作品の発信に取り組む。

「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は、同シリーズ2代目芸術監督吉田鋼太郎のもと、シリーズ最終作品として5月に第37弾・喜劇『終わりよければすべてよし』（演出・出演：吉田鋼太郎、出演：藤原竜也、石原さとみほか）を上演する。

7月には、次代を担う演劇人として注目を集める藤田貴大による児童演劇公演『めにみえない みみにしたい』と『かがみ まど とびら』を再演する。子どもから大人まで幅広い層に向けた鑑賞機会を提供する。なお、本作品は全国12会場でも上演する。

若手演劇集団さいたまネクスト・シアターは、8月に現メンバーによる最終公演として劇団とも縁の深い岩松了の演出による新作を上演する。

高齢者劇団の先進事例として注目を集めるさいたまゴールド・シアターは、今注目を集める演出家・杉原邦生を演出に迎え、12月に太田省吾の伝説的無言劇『水の駅』を上演する。また、10月には英国との国際共同制作『THE HOME』に出演する。同作品はオンラインにて上演する。

その他、共催公演として名作『ムサシ』を8月に上演する。

なお、県北地域に伝統芸能鑑賞の機会を提供するために、毎年、（公財）熊谷市文化振興財団との共催公演として熊谷文化創造館さくらめいとで実施する「松竹大歌舞伎」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

事業名	実施予定時期	会場
彩の国シェイクスピア・シリーズ第37弾 『終わりよければすべてよし』	5月	大ホール
児童劇『めにみえない みみにしたい』『かがみ まど とびら』	7月	大ホール 舞台上
さいたまネクスト・シアター新作 『THE HOME』	8月	小ホール
『THE HOME』	10月	オンライン
さいたまゴールド・シアター『水の駅』	12月	大ホール

『ムサシ』【共催】	8月	大ホール
-----------	----	------

(イ) 舞踊部門

国内外でめざましい活躍をするアーティストの新作制作や、世界的な振付家・演出家による最新作の紹介に取り組むと同時に、若手ダンサーの育成も手がける。

主催公演として、6月には、2006年から毎年上演を続けている近藤良平が率いるユニークなダンスカンパニー「コンドルズ」による埼玉発の新作を上演する。オリジナル映像や生演奏、人形劇などを取り入れ、ダンスの概念を広げた親しみやすい作品で、地域住民を中心に幅広い観客層のさらなる拡大を図る。

また、9月には1970年から80年にかけてピナ・バウシュ ヴッパタール舞踊団の主要メンバーであった振付家のメリル・タンカードによる伝説のダンサー オリガ・スペシフツェワの一生を描いた作品『TWO FEET』を日本で初上演する。ダンサーには元ボリショイ・バレエ団のスターダンサーで、現英国ロイヤル・バレエ団のプリンシパルであるナタリア・オシポワを迎えることで、これまで当劇場での鑑賞のきっかけがあまりなかったバレエファンも足を運ぶ機会となることが期待される。1月には、世界のダンスシーンをリードするイスラエルの振付家オハッド・ナハリンとダンスカンパニー バットシェバ舞踊団による最新作を上演する。『TWO FEET』とともに世界的に活躍する振付家・ダンサーの作品にいち早く触れる貴重な機会を提供する。

親子で一緒に楽しめる機会としては、平成31年2月に当劇場で好評を博した「日本昔ばなしのダンス」を草加市で7月に上演する。

そのほか、育成事業として平成30年度より立ち上げた「さいたまダンス・ラボラトリ」企画を引き続き実施する。ネザーランド・ダンス・シアターの元ダンサーであり振付家としても活躍する湯浅永麻・小尻健太を講師に迎え、プロを目指す若手ダンサーや学生を対象としたワークショップを一定期間に集中的に実施し、若手ダンサーの育成および創造活動に取り組む。また番外編として、ヨーロッパを拠点に活躍するダンサー・振付家の Daniel Linehan のワークショップを実施する。Linehan 自身が振付、踊る作品『BODY of WORK』も併せて上演する。海外の旬のアーティストの作品を目の当たりにしながら直接創作について集中的に学ぶ機会を提供する。

平成26年度から実施しているプロの振付家、ダンサーによる、県内中学校の生徒を対象にしたアウトリーチ事業「MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる！」も引き続き実施する。ダンスを通じてのコミュニケーション能力の育成を図る。

共催公演としては、りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館専属舞踊団 Noism による作品を上演する。

さらに、パーキンソン病患者のために開発されたダンス・プログラムのワークショップをスターダンサーズ・バレエ団との協働で定期開催する。このワークショップはWITH コロナ時代に適応した取組みの一環として、オンラインで同時配信する。

事業名	実施予定時期	会場
コンドルズ埼玉公演 2021 新作	6月	大ホール
ナタリア・オシポワ/メルル・タンカード『TWO FEET』	9月	大ホール
バットシェバ舞踊団新作	1月	大ホール
日本昔ばなしのダンス地方ツアー	7月	草加市
さいたまダンス・ラボラトリ企画 (小尻健太・湯浅永麻によるWS)	8月	大ホール
さいたまダンス・ラボラトリ企画 番外編 (Daniel Linehan によるWS 及び公演)	3月	大稽古場 大ホール
MEET THE DANCE ～アーティストが学校にやってくる!	通年	県内中学校
パーキンソン病患者のためのダンス・プログラム	通年	稽古場 オンライン
Noism【共催】	7月	大ホール

(ウ) 音楽部門

音楽ホールの音響特性を活かし、世界のトップ・アーティストから気鋭の若手まで幅広く起用して、多様なニーズに応える公演を実施する。また、気軽に足を運べる無料コンサートや参加・育成を目的とした事業も併せて展開することで、鑑賞者の更なる拡大につなげる。

世界的レベルの演奏を鑑賞できる機会として、12月に毎年恒例のバッハ・コレギウム・ジャパン公演を実施するほか、3月にベテランピアニスト、アンヌ・ケフェレックによるリサイタル公演、6月にダニエル・オッテンザマーとソフィー・デルヴォーによる管楽器アンサンブル公演、12月にチェリスト堤剛とピアニスト小菅優によるデュオ・リサイタルを実施する。

バッハ・コレギウム・ジャパン公演に際しては関連レクチャー、管楽器アンサンブル公演に際してはメンバーによる県内の高校生・大学生等を対象としたマスタークラスなどの教育プログラムを行う。本格的なクラシック音楽を埼玉の地で楽しめる機会を提供するとともに、世界的に評価される著名アーティストが演奏する音楽の殿堂として、当劇場の存在をアピールする。

15年目を迎える、選りすぐりの若手ピアニストによる「ピアノ・エトワール・シリーズ」では、過去の出演者が再登場するアンコール・シリーズに河村尚子を迎えるほか、2018年浜松国際ピアノ・コンクールを制したトルコの新星ピアニスト、ジャン・チャクムル、今世界的な活躍が期待できる日本の

若手ピアニストとして注目を集める小林愛実の計3名のピアニストを迎える。若手アーティストの公演を継続的に実施することで、次の世代の発掘支援に貢献する。

一方、誰でも気軽に音楽に触れられる機会を提供するため、ポジティブ・オルガンを活用したオルガン事業（無料のミニコンサート「光の庭プロムナード・コンサート」、「みんなのオルガン講座」、「大塚直哉レクチャー・コンサート（全2回）」）を継続するとともに、昨年スタートしたシリーズ「イレブン・クラシックス」では、ゲストにミュンヘン国際音楽コンクール第1位入賞で注目を集める葵トリオ、メトロポリタン歌劇場で鮮烈なデビューを飾り、以来世界中のオペラに出演するソプラノ歌手森谷真理を迎える。多様な年代、ライフスタイルや価値観に応じて、音楽に接するための選択肢を用意することで、誰もが音楽を身近に感じられる環境を創り出せると期待する。

さらに、若い世代に芸術の体験機会を提供する小・中学校へのアウトリーチ事業「MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる！」も引き続き実施する。劇場に足を運ぶことが難しい環境にある学校などに直接音楽を届けることで、未来ある若い世代の育成につなげる。

6年目を迎える共催事業としては、埼玉県在住で日本を代表するピアノデュオ ドゥオールによるデュオセミナーを8月に開催する。

事業名	実施予定時期	会場
ピアノ・エトワール・シリーズ (Vol.42~43、アンコール! Vol.9)	4月～2月	音楽ホール
林田直樹ナビゲート「イレブン・クラシックス」	6月・2月	音楽ホール
大塚直哉レクチャー・コンサート	7月・2月	音楽ホール
ダニエル・オッテンザマー&ソフィー・デルヴォー デュオ・リサイタル (県内の高校生・大学生を対象とした教育プログラム)	6月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート 夏休みスペシャル	7月	情報プラザ
Ensemble FOVE 「ZINGARO!!!」 (仮)	9月	音楽ホール
堤剛&小菅優 デュオ・リサイタル	12月	音楽ホール
バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル メサイア (関連レクチャーも開催)	12月	音楽ホール
アンヌ・ケフェレック ピアノ・リサイタル	3月	音楽ホール
光の庭プロムナード・コンサート	通年	情報プラザ
みんなのオルガン講座	通年	大練習室他
MEET THE MUSIC ~アーティストが学校にやってくる!	通年	県内小・中学校
ピアノデュオ ドゥオール デュオセミナー創造の4日間 in 彩の国さいたま芸術劇場【共催】	8月	音楽ホール他

(エ) その他

彩の国落語大賞の授与など若手落語家の発掘・支援にも貢献してきた「彩の国さいたま寄席」（年4回）や、親子で劇場空間に親しんでいただく「劇場体験ツアー」を実施する。

また、県内高等学校の生徒等及び公立文化施設の職員を対象とした舞台技術の研修会を実施するとともに、埼玉大学の授業への講師派遣、大学生インターンシップを受け入れるなど、地域貢献とともに地域連携を深める。

さらに、障害者の劇場体験や芸術参加を支援するために必要とされる知識を共有し、方法論や改善策を議論するバリアフリー・セミナーを開催する。

次期芸術監督近藤良平プロデュースにより、劇場空間を活用しながら、広い世代を対象とした、ダンスや音楽など、ジャンルを超えて身体で楽しむプログラムを『彩の国さいたま芸術劇場オープン・シアター（仮）』として実施する。また、与野本町駅周辺や駅から劇場までの道のりにも劇場文化を楽しむ仕掛けを施すなど、地域（中央区）との連携を図り、賑わいづくりにもつなげる。

心と体で楽しむ劇場体験により、近藤氏が芸術監督就任となる令和4年度からの、劇場の新たな変化への期待感の醸成を図る。

事業名	実施予定時期	会場
彩の国さいたま寄席	4月～1月	小ホール
彩の国さいたま芸術劇場オープン・シアター（仮）	9月	小ホール他
劇場体験ツアー	未定	大ホール
大学生インターンシップ	通年	芸術劇場
バリアフリー・セミナー	未定	映像ホール
舞台技術講座	未定	大ホール
埼玉大学アートマネジメント講座	未定	埼玉大学

イ 埼玉会館（7事業）

埼玉会館では、平日昼間のランチタイム・コンサートを定期的で開催し、親しみやすい音楽の鑑賞機会を広く提供し、新たな鑑賞者層の開拓を図る。

また、大ホールの特性を活かしたオーケストラ公演として毎年好評を博しているNHK交響楽団公演を10月に実施する。

さらに、約2年ぶりとなる野村万作・萬斎による狂言公演を2月に実施する。

事業名	実施予定時期	会場
埼玉会館ランチタイム・コンサート（第48回～第52回）	5月～3月	大ホール
NHK交響楽団	10月	大ホール
狂言「万作・萬斎の世界」	2月	大ホール

(3) 企画展示・広報等

ア 企画展示事業

彩の国さいたま芸術劇場内の情報プラザ、ギャラリー等を活用し、財団主催事業の紹介や舞台芸術への関心を高めるための企画展示を開催する。

イ 財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行

財団の会員「メンバーズ」の拡大とチケットの販売促進に効果を上げるため、財団の主催する公演や活動内容を紹介する情報誌を発行する。

(ア) 発行回数、部数 年6回 各12,000部発行

(イ) 配布先 財団メンバーズ、サポーター会員、マスコミ、プレイガイド、県内文化施設など

ウ メンバーズ事業

主催事業のチケットの優先予約や割引販売などを行うことにより、顧客の定着化と拡大、チケットの販売促進を図る。

会員数 4,517人（令和3年2月末現在）

エ サポーター会員制度の運営

財団の活動に対し支援いただく法人等の会員組織「サポーター会員」の運営を行うとともに、会員の拡大を図る。

サポーター会員数 118社（者）（令和3年2月末現在）

(4) 資料収集

演劇、舞踊、音楽、映画等の分野に係る書籍、CD、DVD等を収集するとともに、当財団自主企画事業の記録映像を含めた公演資料の適切なアーカイブ化を図り、彩の国さいたま芸術劇場の舞台芸術資料室において公開する。

2 芸術文化活動の場の提供等に関する事業

芸術文化活動の拠点施設として、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館について、各施設の持つ機能を効果的に活用して施設貸与を実施する。

(1) 彩の国さいたま芸術劇場

施設の適正な管理を行うとともに、ホール、稽古場、練習室等が十分に活用されるよう利用者サービスの向上に努めるほか、施設の空き情報の提供などを行い、利用率の向上に努める。

また、ホームページを活用し、わかりやすく充実した利用案内や施設利用情報の提供、公演チラシ掲載による貸館公演の広報支援など、サービスの充実を図る。

さらに、地下のロビー等共用スペースに公衆Wi-Fiを導入し、利便性向上を

図る。

(2) 埼玉会館

施設の適正な管理を行うとともに、ホール、会議室、展示室等が十分に活用されるように、会議室では時間無制限でつながることができるWi-Fiを導入し、このコロナ禍でネット会議を確実にできる環境を整え、利用者サービスの向上に努める。

また、施設の活性化と利用促進のために大型催事の誘致を行うほか、施設の空き情報の提供、SNSによる情報発信等を行い、利用率の向上に努める。

また、ホームページを活用し、わかりやすく充実した利用案内や施設利用情報の提供、貸館公演の広報支援など、サービスの充実を図る。

3 芸術文化に係る事業を推進するための付帯事業

芸術文化に係る事業を推進するために、次の付帯事業を実施する。

(1) 各種の活動及び発表の場の提供

埼玉会館において、芸術文化活動以外の講演会、講習会及びその他の催し物等について施設の貸与を行う。

(2) 駐車場及びレストランの運営

施設利用者の便宜を図るため、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館において有料駐車場を運営する。

また、各施設内のレストランを運営することで、利用者へのサービス向上や賑わい創出を図る。埼玉会館では、レストラン事業者と連携し、会館施設を有効活用したパーティーやウェディング等の利用者サービス拡大を図る。

(3) その他公益目的事業の推進に資する事業

施設利用者の便宜を図るため、彩の国さいたま芸術劇場及び埼玉会館において自動販売機及びタクシー電話を設置する。また、施設内及び敷地内での写真や動画の撮影等を受け入れる。

(4) 埼玉会館のブランディング事業

全国に誇れる価値をもつ埼玉会館の歴史と建築を発信するため、ブランディング事業を行う。前川國男氏が設計したモダニズム建築（「前川建築」）である埼玉会館の多彩な魅力、特徴を様々な角度から知ってもらうことで、ブランド化による更なるイメージと認知度のアップを図る。

(5) 賑わい創出と活性化のための共催・連携事業

彩の国さいたま芸術劇場では、さいたま市や地元の団体と連携し、地域の活性化を図る。「彩の国シェイクスピア・シリーズ」の出演者の手形レリーフを設置するさいたま市アートストリート事業や、地元の各種イベントとの共催事業を実施する。

埼玉会館では、高い芸術性や話題性のある事業を共催し、埼玉会館を拠点とした活動や発信の場を広げる。また、地域社会との連携により、町内会のお祭りへの協力、商店会と合同での「県庁通りイルミネーション」の設置、財団自主事業の観客に対し地元商店の協力を得て各種サービスの提供を行う。さらに、国や県が推進する啓発事業等と関連したライトアップの取組にも積極的に協力していく。

(6) 広報事業

財団情報誌「埼玉アーツシアター通信」の発行や近隣施設への公演チラシの配架依頼、ホームページの充実や各種SNSによる積極的な情報発信を行い、幅広い層に財団の事業、施設をPRする。

彩の国さいたま芸術劇場では、舞台芸術や劇場への関心を高めてもらうとともに、施設利用の促進を図るため、劇場見学ツアーを実施する。